

数字でみる博物館 — 博物館評価の現場から —

中村 修美

平成20年6月に博物館法が改正され、博物館運営に関する評価の努力義務が設けられました。埼玉県では、それに先立つ2年前の平成18年度から博物館評価を実施しています。県立の博物館施設は再編整備を行い平成18年4月から新たな博物館として出発しましたが、この検討過程で博物館評価を実施することが決定されました。自然の博物館も毎年評価結果を報告し、今年で4年目になります。平成18年度から評価項目を修正しながら実施していますので、20年度までの評価項目が全く同じわけではありませんが、博物館評価に関して埼玉県は先進的と言えます。

博物館の評価というと『数値』で表され、最初に入館者数が思い浮かべられます。入館者数は確かに重要な数値ですが、博物館は多様な活動をしています。そのすべてを紹介することが出来ませんが、ここでは支援と助言・協力の分野の数値を表にまとめました。それをもとに博物館活動をみてみましょう。

支援：学校利用数は遠足・校外学習での学校単位での利用です。年々増加傾向にあるように見えますが、遠足での利用は以前に比べると少なくなっています。一方、調べ学習や総合的な学習などでの利用が増加しています。残念ながら、この数字だけでは内容までは表現することが出来ていません。学校対象の現地指導や出前授業などの学校支援の件数も増加傾向にあります。公民館や社会教育施設を対象とした件数では、平成19年度は少なくなっていますが、全体としてはやや増加傾向にあるように見えます。博物館主催の観察会などの

事業のほかにも、このように野外や館内での多様な対応を行っています。また、あまり知られていないのですが、自然観察に使用する器具の貸し出しも行っています。

助言・協力：年間で700件近い対応をしていて、平成18年度から大きな変化はありません。対応には、「名前を教えて欲しい」などの問い合わせから、「道路設置に伴う希少植物の保護・移植指導」や「天然記念物にかかわる調査」「生物多様性にかかわる標本情報の提供」など専門的な内容まで含まれています。最近では、「県・国機関等への協力」にみられるように専門的な内容が増加傾向にあります。これは、生物多様性や環境保全への社会的要求の高まりと関係しているものと考えられます。

博物館には、「展示施設」「調査研究施設」「資料保管・収蔵施設」「教育普及施設」「生涯学習の場としての施設」など多様な面があり、それぞれが重要な活動です。博物館には多様な要望や期待が寄せられますが、博物館が投入できる人員と時間には限りがあります。ある分野に集中的に投資することは、他の分野を犠牲にすることになりかねません。この調整・取り合いが難しいところです。うまく調整を取りながら、博物館活動を充実させ、発展させていきたいと考えています。皆様のご援助、ご協力をお願いします。

なお、各年度の詳しい評価内容はホームページ <http://www.shizen.spec.ed.jp/> にありますのでご覧ください。

(なかむら おさみ・学芸主幹)

	18年度	19年度	20年度	21年度 (12月末現在)	
入館者数	70,195	73,025	64,871	55,771	
支援	学校利用数	121	160	197	166
	学校支援数	48	52	63	88
	社会教育施設など支援数	42	25	48	44
助言・ 協力	レファレンス数	696	680	647	563
	県・国機関等への協力件数	19	27	28	36